



地域支援だより 皆よし！

令和3年度 第1号

県立皆与志養護学校 支援部

皆与志養護学校の支援部では、特別支援教育に関するセンター的機能の一層の充実を図り、地域支援に協力させていただきたいと考えています。対象の幼児・児童・生徒、相談者である先生方、保護者の方々、「みんながHappy！」となることを願い、微力ながらお手伝いさせていただきます。

この地域支援だよりでは、日頃心掛けていたり、ふと思ったことなどを発信したいと思います。

1年間、よろしくお願いします。

「やっぱりね」「思ったとおり」に御注意！

「確認バイアス」という言葉を聞いたことがありますか？

大まかに言うと、あらかじめ自分で持っていた仮説や先入観に合う情報だけを求めるような傾向のことです。

例えば占いを信じる人が、相の星座や血液型などの特徴から、「きっとこの人はこういう人」と、イメージを抱くと、無意識にその特徴に合う部分にばかりに注目して、「当たってる！」と思うといったことでしょうか。



新年度、新たな子どもたちとの1年をスタートするに当たって、私たちは前年度の担当などから引継を受けると思います。引継資料はとても大切な情報です。どんな子どもかを事前に知っておくことで、先回りの支援ができ、環境の変化に対する負荷を軽減できます。不安やドキドキの大きな子どもたちにとっては最初が肝心。新しいスタートが、「いい感じ」だと、その後も順調に進みやすくなります。

ところが、引継資料の内容に、「苦手なこと」や「心配な点」などの情報ばかり書かれてあるとどうでしょう。もしかしたら、確認バイアスの罠にはまり、資料に書かれてある情報に当てはまる行動ばかりが目についてしまうことがあるかもしれません。「診断名のみが一人歩きする」といった問題も耳にします。引き継ぐ際は、苦手なことや心配なこととともに、その支援方法を伝えることが重要です。そして、できること、得意なことも忘れずに伝えることを心掛けなければと思います。そして受け取る側は、「確認バイアス」という人間の脳のクセを認識した上で、その情報だけにとらわれることなく、ありのままの子どもを丸ごと理解することを意識的に努めながら実態把握を行わなければならないと考えます。そのためにも、実態把握を行うに当たっては複数の人の目があるといいですね。



巡回相談等の事前資料などに「集中力が続かない」と書かれてあると、その子の集中していない場面について意識が向きます。そんなときにふと教室全体を見てみると、同様にあるいはそれ以上に集中できていない子どもも多くいることがあります。それは蒸し暑い日の6時間目だったり、プールの授業の後だったり、難しい内容の授業だったり。

客観的に情報を集めることで、その子の苦手さに起因しているのか、その他の原因によるものなのかを吟味することができ、我に返ります。また、逆に「集中できているときはどんなときかな」という視点に立つことで、有効な支援のヒントを見つけやすくなるなど感じています。